

第12回STYP

2022/3/12

# 学振採択者の研究業績： researchmap調査

---

STYP運営陣

※学振の基本的な情報は、毎年規定が変わったり、発表内容に誤りがある可能性もあるので、各自最新の情報を学振のHPでご確認ください。

# スモールトークの概要

---

①学振とは？

② researchmapとは？

③ウェブスクレイピングで、researchmapの情報から、学振採択者の研究業績数をカウントした結果の紹介

# 学振とは？

---

日本学術振興会 特別研究員 の略

「特別研究員制度は、我が国の優れた若手研究者に対して、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る制度です。」

日本学術振興会 ホームページ <https://www.jsps.go.jp/j-pd/index.html>

→博士後期課程やポスドクの時期に、給料（研究奨励金）と研究費をもらいながら研究できる制度。

# 学振の種類

2022年時点

種類	採用期間	時期・条件	給料（円/月）	研究費
DC1	3年間	博士後期1年から～ （M2時申請）	20万	約100～150万円
DC2	2年間	博士後期2、3年から～ （D1, D2時申請）	20万	同上
PD	3年間	博士号取得（見込含む）から 5年未満の人は申請可能。	36.2万	同上
RPD	3年間	出産あるいは未就学児の養育のために、 3か月以上研究活動を中断した者。 博士号取得者（見込含む）。	36.2万	同上
海外学振	2年間	博士号取得（見込含む）から 5年未満の人は申請可能。	年額450～620万 （渡航先による）	←研究費を含む？

※給料や研究費は、国に予算状況で変動する可能性あり。

※SPD（すごいポスドク）：PDと同じ区分だが給料や研究費多い（現在は廃止）

CPD（国際競争力強化研究員）：PDが5年間になり、3年間は海外

# 評価の基準

---

- 審査方針（学振DC）

- ① 自身の研究課題設定に至る背景が示されており、かつその着想が優れていること。  
また、研究の方法にオリジナリティがあり、  
自身の研究課題の今後の展望が示されていること。
- ② 学術の将来を担う優れた研究者となることが十分期待できること。

- 審査方針（学振PDには以下が追加）

- ③ 博士課程での研究の単なる継続ではなく、新たな研究環境に身を置いて  
自らの研究者としての能力を一層伸ばす意欲が見られること。

- 採点項目（1～5点で採点）

- 1, 研究計画の着想およびオリジナリティ
- 2, 申請書から推量される研究者としての資質

→採択と、研究業績（発表論文数）の関係は？

(DC 申請内容ファイル)

**2. 【研究計画】** ※適宜概念図を用いるなどして、わかりやすく記入してください。なお、本項目は1頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

### (1) 研究の位置づけ

特別研究員として取り組む研究の位置づけについて、当該分野の状況や課題等の背景、並びに本研究計画の着想に至った経緯も含めて記入してください。

**【研究計画】(続き)** ※適宜概念図を用いるなどして、わかりやすく記入してください。なお、各事項の字数制限はありませんが、全体で2頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

### (2) 研究目的・内容等

- ① 特別研究員として取り組む研究計画における研究目的、研究方法、研究内容について記入してください。
- ② どのような計画で、何を、どこまで明らかにしようとするのか、具体的に記入してください。
- ③ 研究の特色・独創的な点（先行研究等との比較、本研究の完成時に予想されるインパクト、将来の見通し等）にも触れて記入してください。
- ④ 研究計画が所属研究室としての研究活動の一部と位置づけられる場合は申請者が担当する部分を明らかにしてください。
- ⑤ 研究計画の期間中に受入研究機関と異なる研究機関（外国の研究機関等を含む。）において研究に従事することも計画している場合は、具体的に記入してください。

**4. 【研究遂行力の自己分析】** ※各事項の字数制限はありませんが、全体で2頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。  
本申請書記載の研究計画を含め、当該分野における(1)「研究に関する自身の強み」及び(2)「今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素」のそれぞれについて、これまで携わった研究活動における経験などを踏まえ、具体的に記入してください。

(※) 本行を含め、以下の斜体で記した説明文は申請書を作成する際には消去してください。

- ・下記(1)及び(2)の記入にあたっては、例えば、研究における主体性、発想力、問題解決力、知識の幅・深さ、技量、コミュニケーション力、プレゼンテーション力などの観点から、具体的に記入してください。また、観点を項目立てするなど、適宜工夫して記入してください。  
なお、研究中断のために生じた研究への影響について、特筆すべき点がある場合には記入してください。

### (1) 研究に関する自身の強み

(※) 本行を含め、以下の斜体で記した説明文は申請書を作成する際には消去してください。

- ・記述の根拠となるこれまでの研究活動の成果物(論文等)も適宜示しながら強みを記入してください。  
成果物(論文等)を記入する場合は、それらを同定するに十分な情報を記入してください。  
(例) 学術論文(査読の有無を明らかにしてください。査読のある場合、採録決定済のものに限ります。)  
著者、題名、掲載誌名、巻号、pp 開始頁-最終頁、発行年を記載してください。  
(例) 研究発表(口頭・ポスターの別、査読の有無を明らかにしてください。)  
著者、題名、発表した学会名、論文等の番号、場所、月・年を記載してください。(発表予定のものは除く。ただし、発表申し込みが受理されたものは記載してもよい。)

←論文等の  
成果物を適宜示す

### (2) 今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素

**5. 【目指す研究者像等】** ※各事項の字数制限はありませんが、全体で1頁に収めてください。様式の変更・追加は不可  
日本学術振興会特別研究員制度は、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的としています。この目的に鑑み、(1)「目指す研究者像」、(2)「目指す研究者像に向けて特別研究員の採用期間中に行う研究活動の位置づけ」を記入してください。

(1) 目指す研究者像 ※目指す研究者像に向けて身に付けるべき資質も含め記入してください。

(2) 上記の「目指す研究者像」に向けて、特別研究員の採用期間中に行う研究活動の位置づけ

# researchmapとは？

日本の研究者が、自己紹介するページ  
(研究者番号を持っていない場合でも、人に紹介してもらって作成できます)

→ポスドク以上の人はほとんど作っている

- ・研究分野
  - ・これまでの経歴（学振特別研究員含め）
  - ・論文
- などが登録されている

The screenshot shows the researchmap profile page for Toru Takahashi. The header includes the researchmap logo, language options (日本語 | English), and links for 新規登録 and ログイン. The profile section features a photo of Toru Takahashi, his name 高橋 徹, and his affiliation タカハシ トオル (Toru Takahashi). The update date is 更新日: 03/10. Below the profile is a navigation menu with tabs for ホーム, 研究キーワード, 研究分野, 経歴, 学歴, 委員歴, 受賞, 論文, MISC, 書籍等出版物, 講演・口頭発表等, and 担当経験のある科目(授業). The 研究分野 tab is selected, showing a list of research fields: ライフサイエンス / 基盤脳科学 / and 人文・社会 / 臨床心理学 /.



# researchmap から抽出した情報

- ・採用年度の前年までの業績をカウント。  
(例. 2021年度から採用開始の人は、2020年までの業績数)
- ・分野は採択分野ではなく, researchmapに登録されている分野
- ・2011年以降の採択者に限って集計。
- ・査読付き論文に限定。

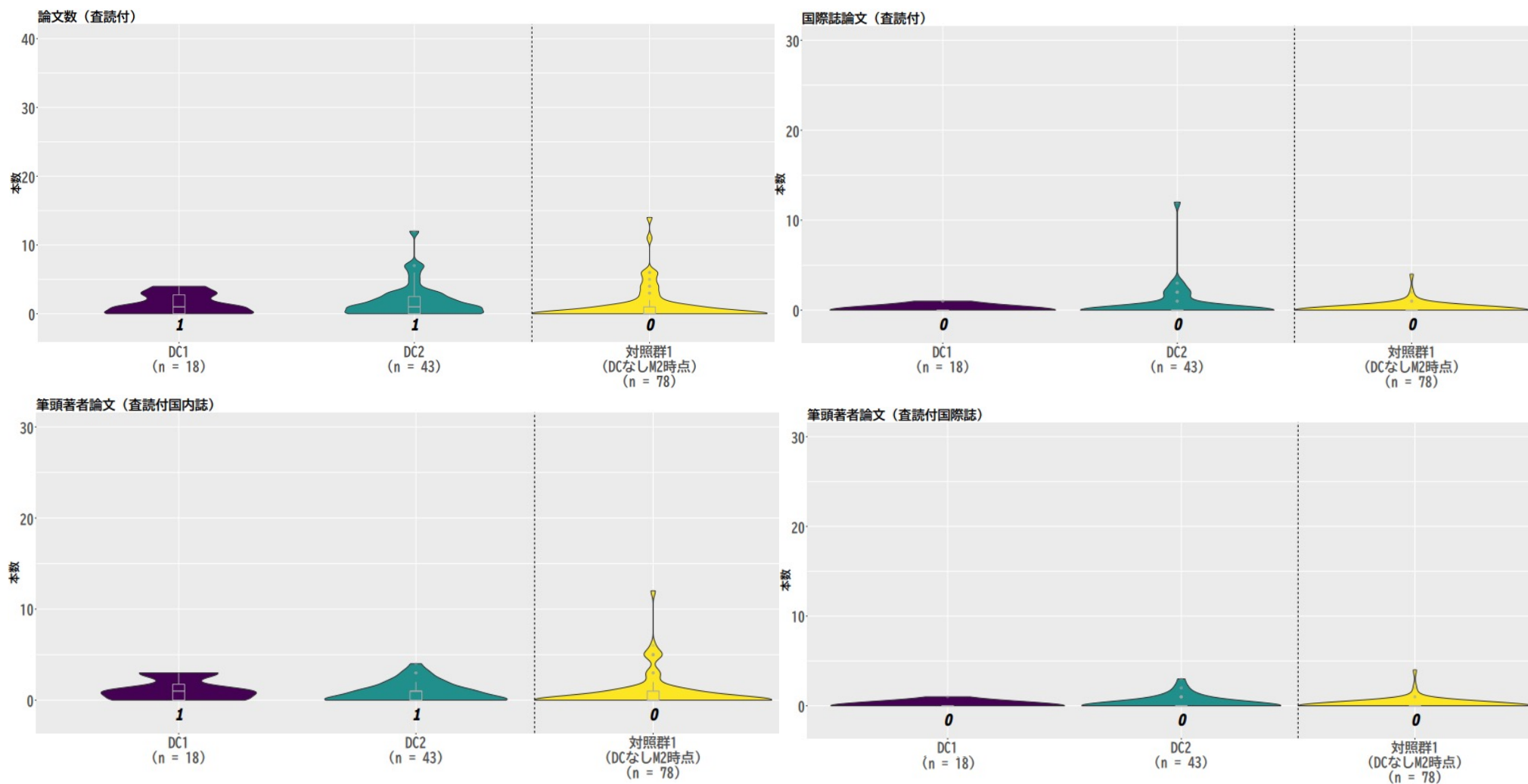
※対照群として、以下の2パターンも調査。

「対照群1 (DCなしM2時点)」 DC採用歴がない人のM2時点での業績

「対照群2 (PDなしD3時点)」 PD採用歴がない人のD3時点での業績



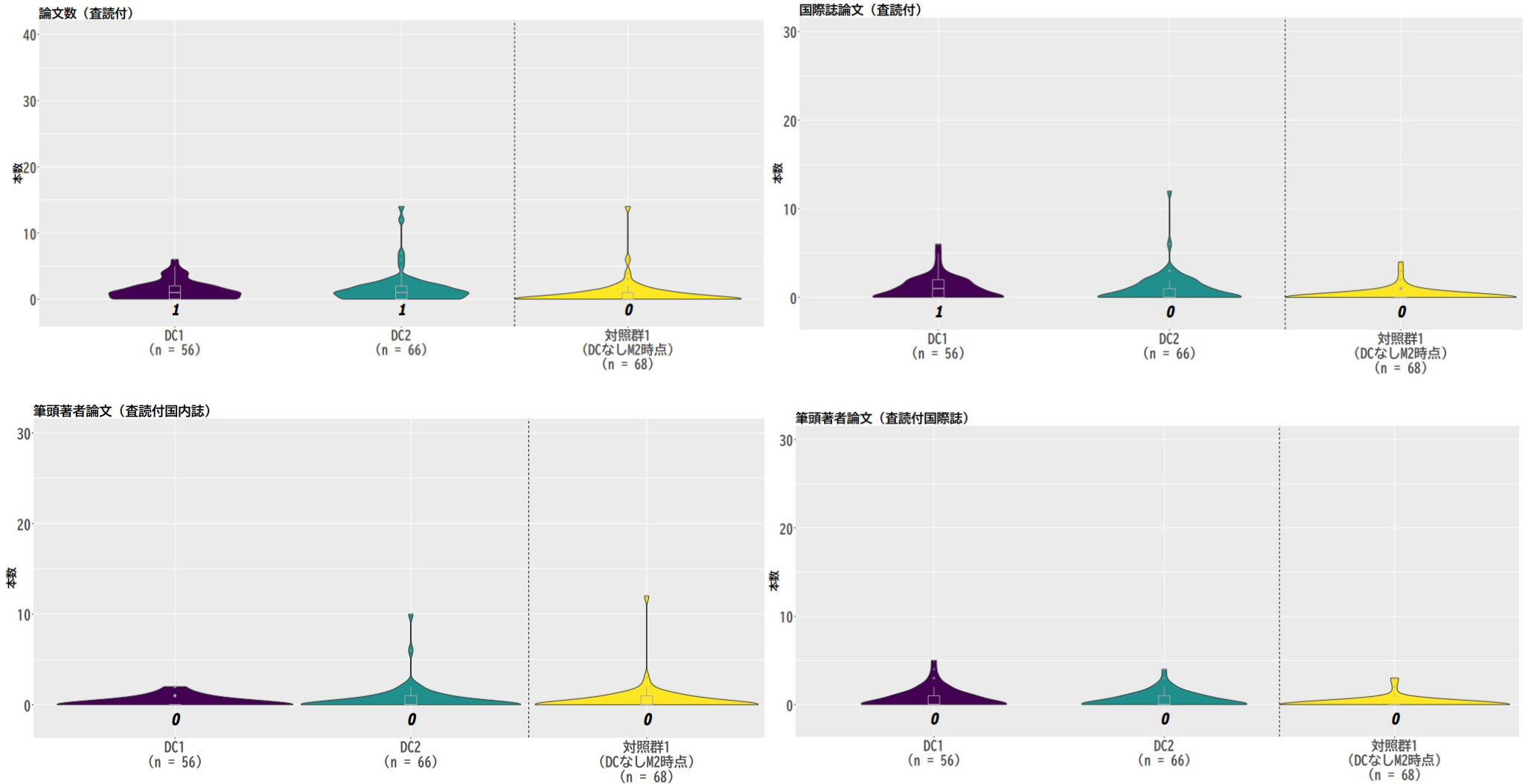
# 結果 | 教育心理DC



→採択者は国内誌でも査読付き論文が1つある人が多い

※太字数字は中央値。(学振採択者は、必ずしもM2時点の業績ではないことに注意。)

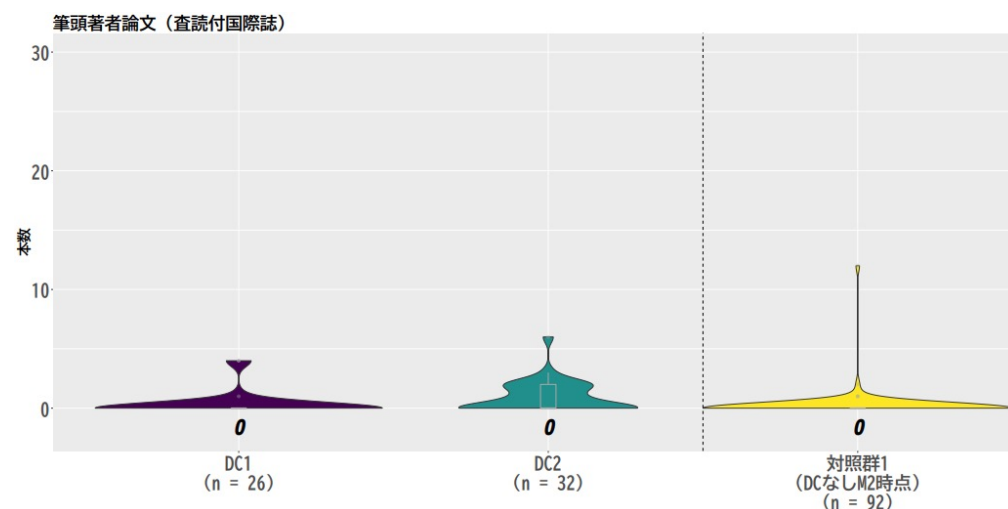
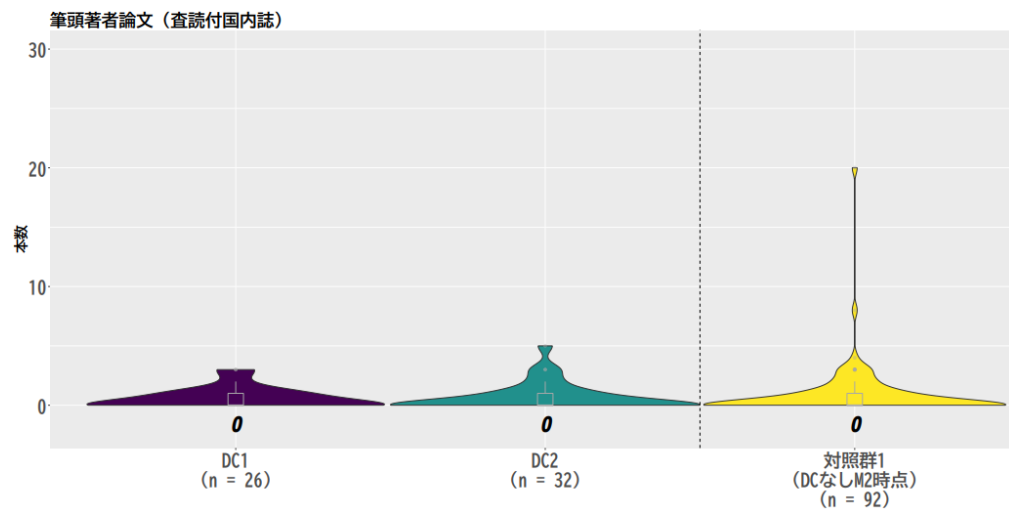
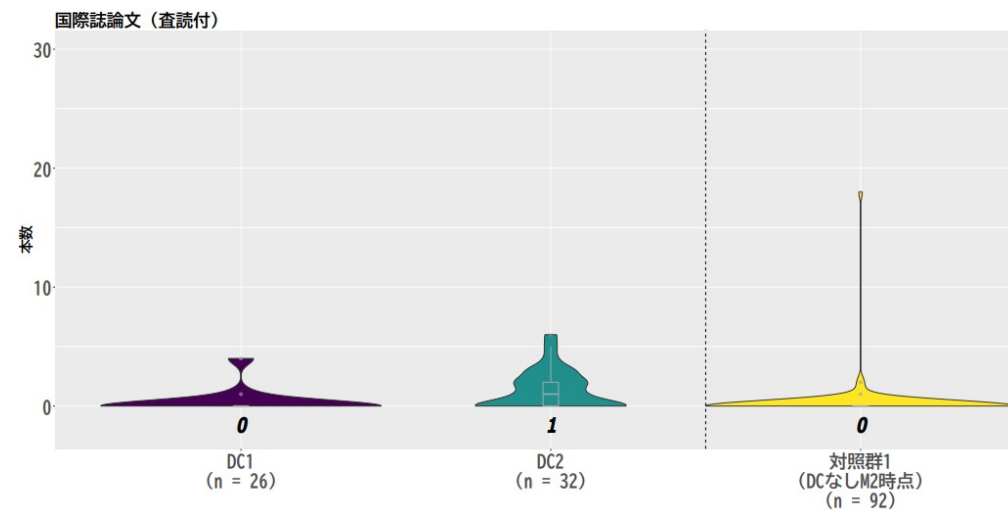
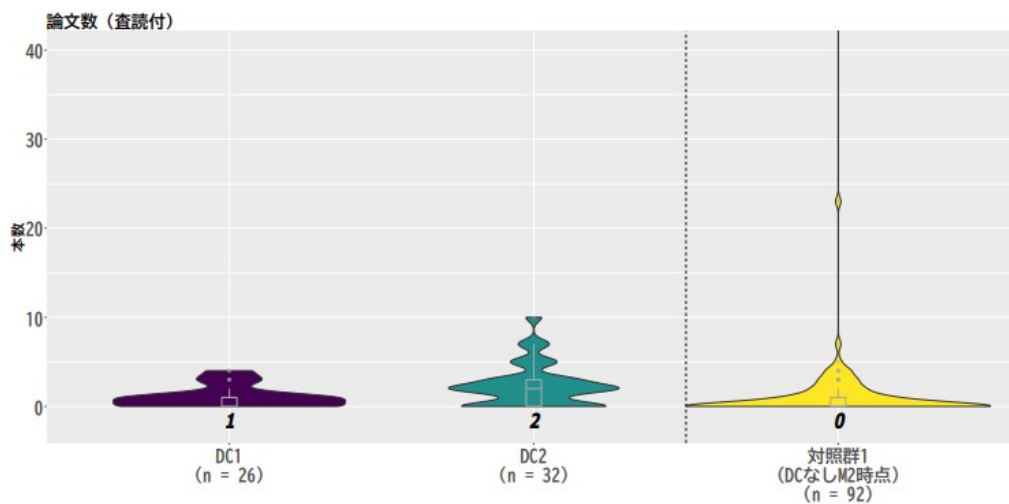
# 結果 | 実験心理DC



→採択者はとにかく国際誌で論文が1つ出てる人が多い

※太字数字は中央値。(学振採択者は、必ずしもM2時点の業績ではないことに注意。)

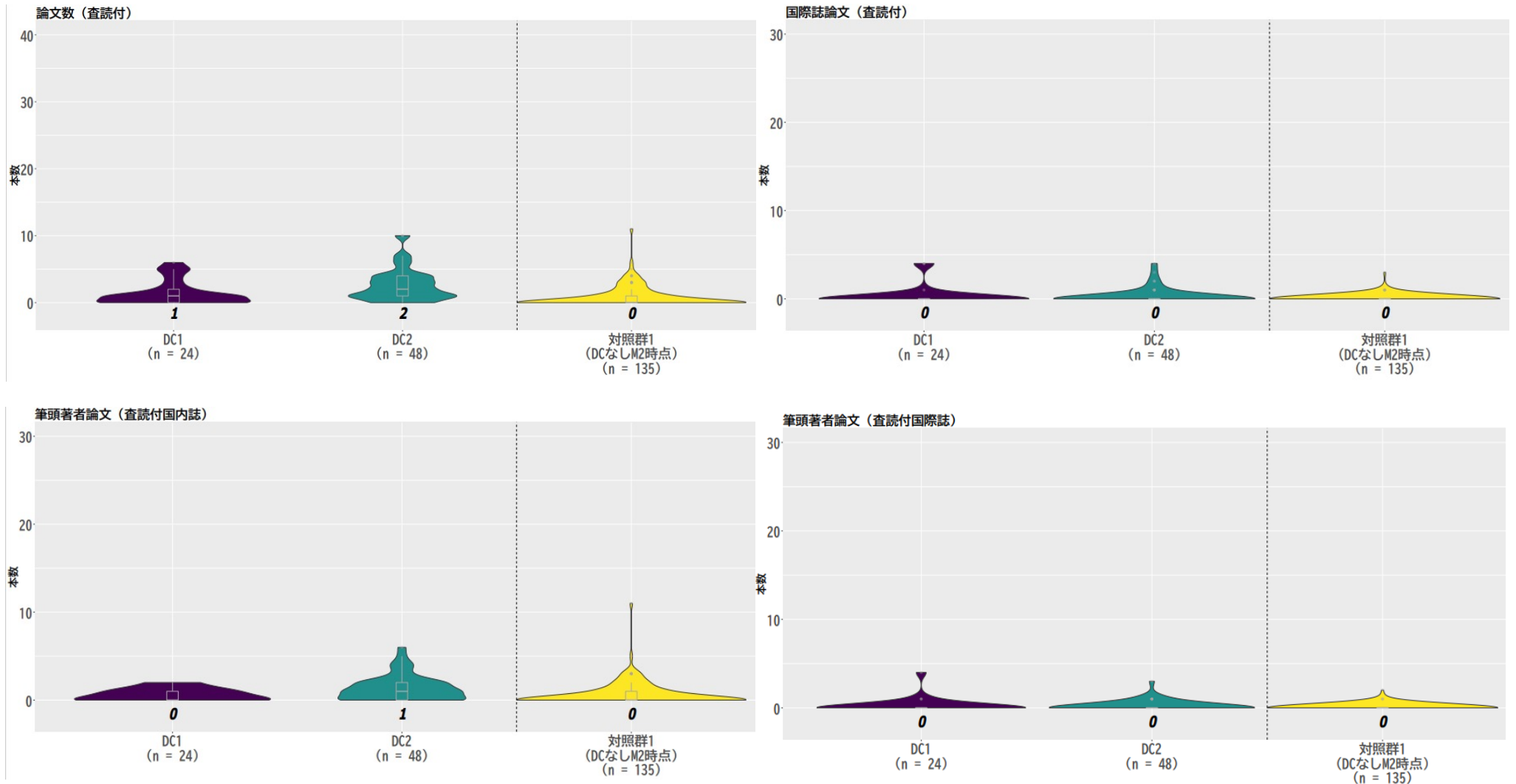
# 結果 | 社会心理DC



→DC1は筆頭がゼロの人も多い

※太字数字は中央値。(学振採択者は、必ずしもM2時点の業績ではないことに注意。)

# 結果 | 臨床心理DC



→DC2採択者は（国内誌で）筆頭が1本以上ある人が多い

※太字数字は中央値。（学振採択者は、必ずしもM2時点の業績ではないことに注意。）

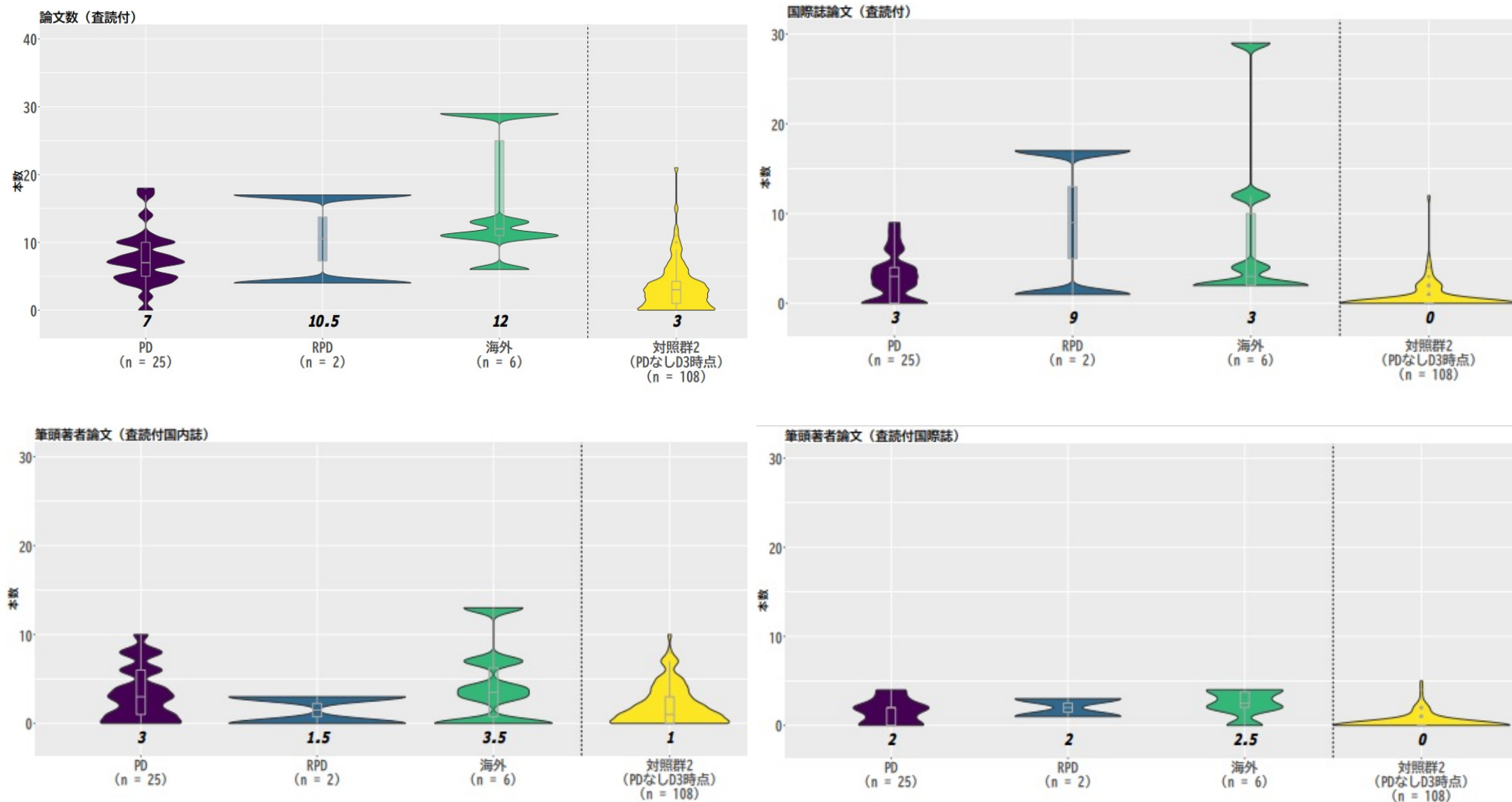
# DC結果まとめ

---

- どの分野でも、発表論文数がゼロでも、採択されている人が結構いる。（ゼロが分厚い）
- 一方で、論文（国内・国外に限らず）を1つ書いてるかどうかは大きそう。
- 分野によって、国内誌・国際誌の比重が違う？  
（実験心理は国際誌での業績がある一方で、教育心理や臨床心理では国内誌の人も多い）

※特にここ数年の採択者は、  
採択されていても、Researchmapを作っていない人も多いため、  
サンプリングにバイアスあり。

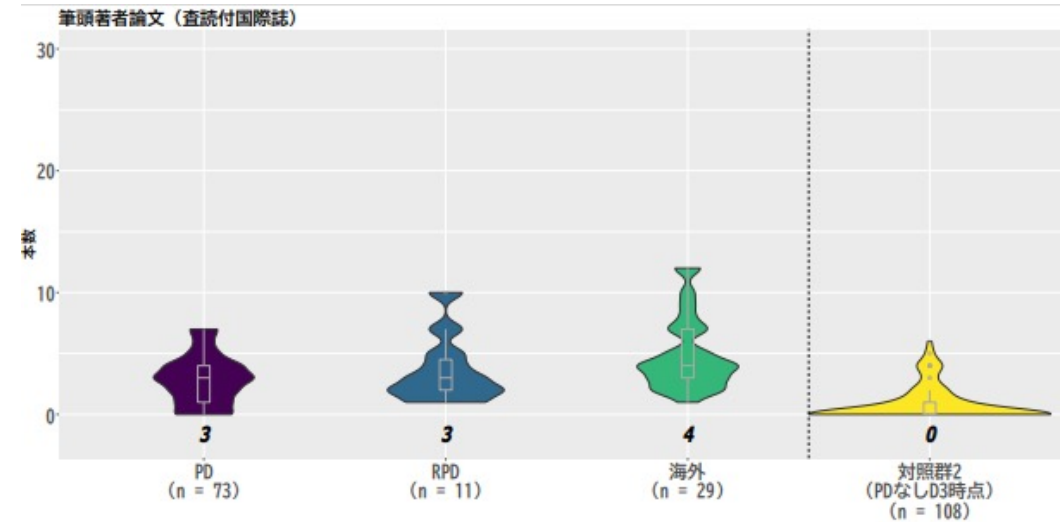
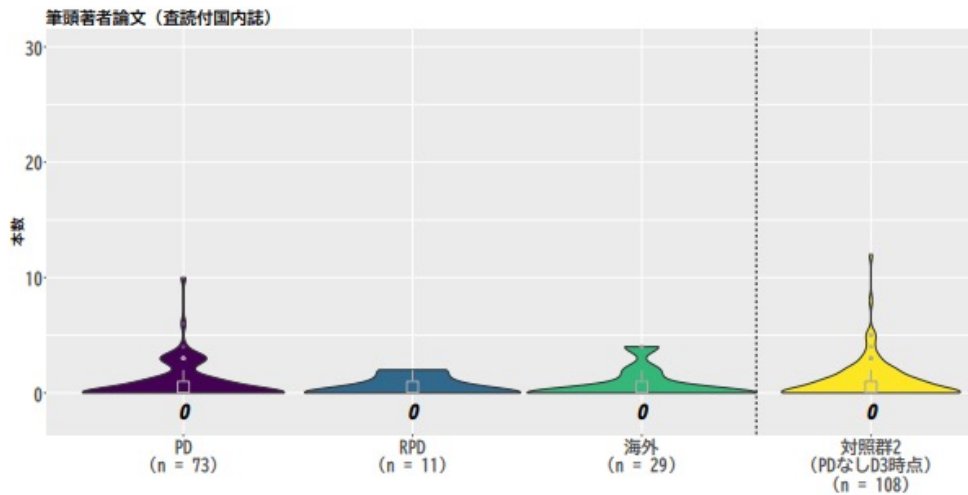
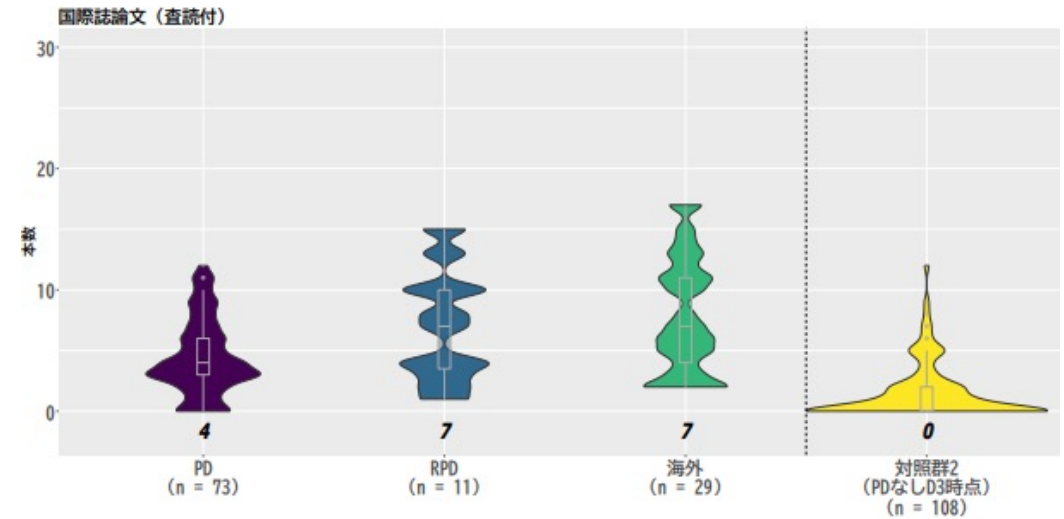
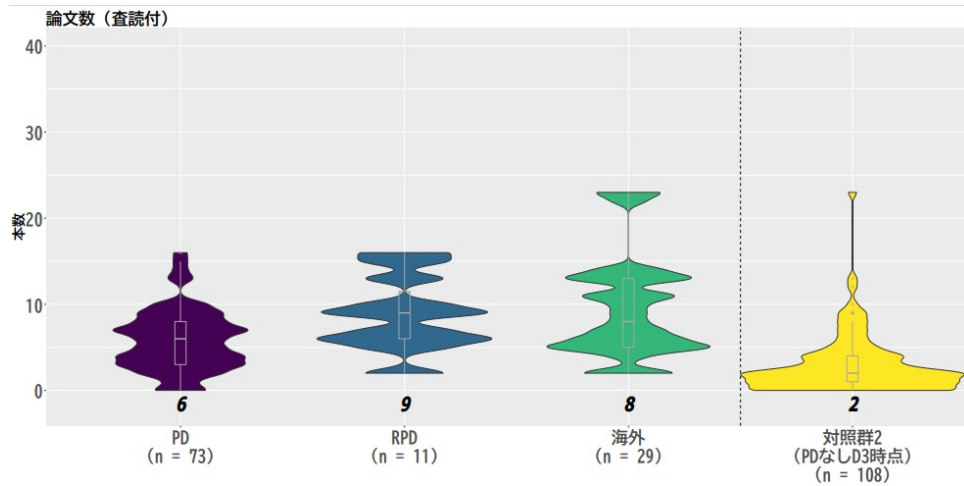
# 結果 | 教育心理PD



→PDは対照群より国際雑・国内誌それぞれ2本程度多い

※太字数字は中央値。(学振採択者は、必ずしもD3時点の業績ではないことに注意。)

# 結果 | 実験心理PD

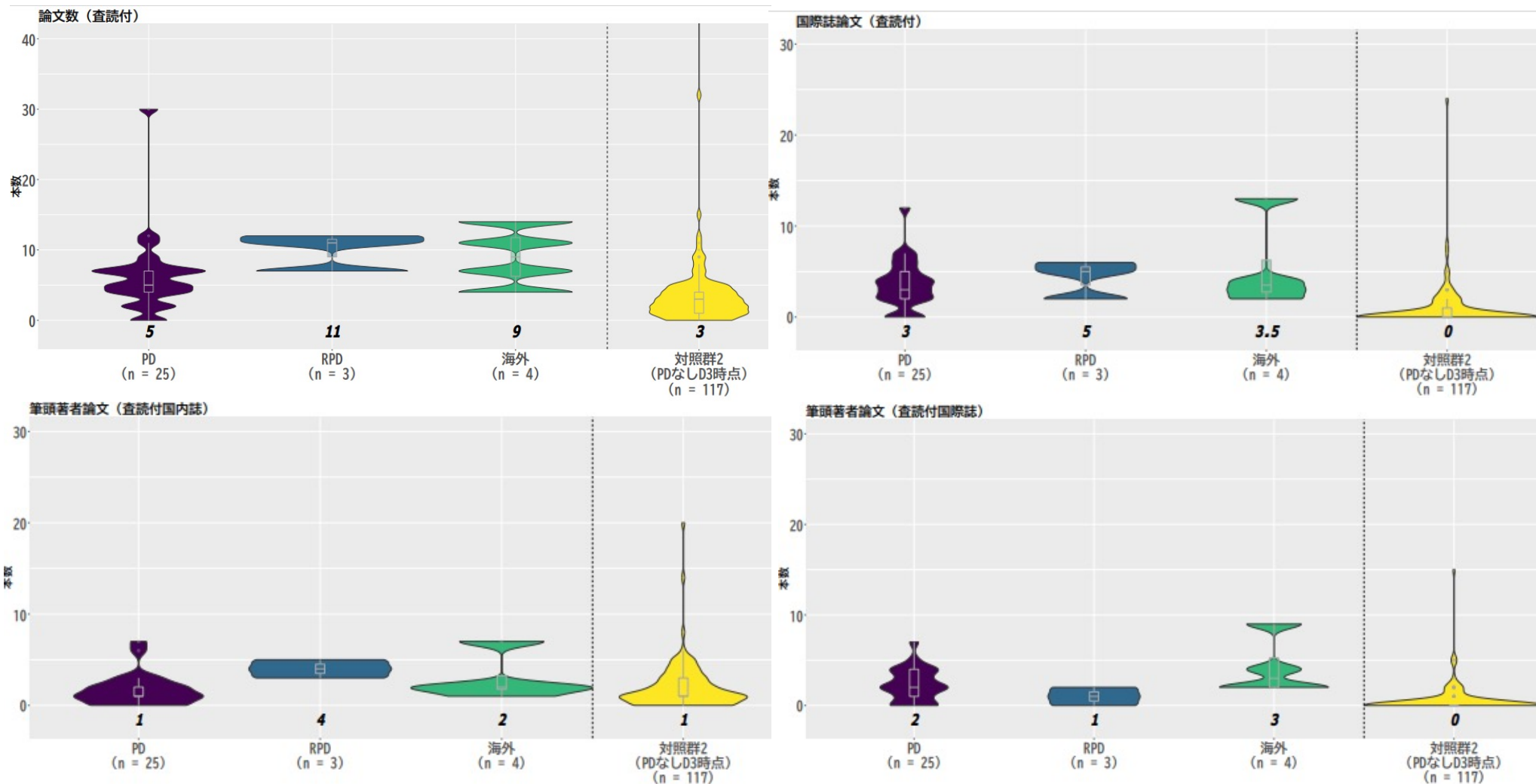


→国際誌論文の有無が重要？（国内誌はそもそもあまり出さない？）

※太字数字は中央値。（学振採択者は、必ずしもD3時点の業績ではないことに注意。）



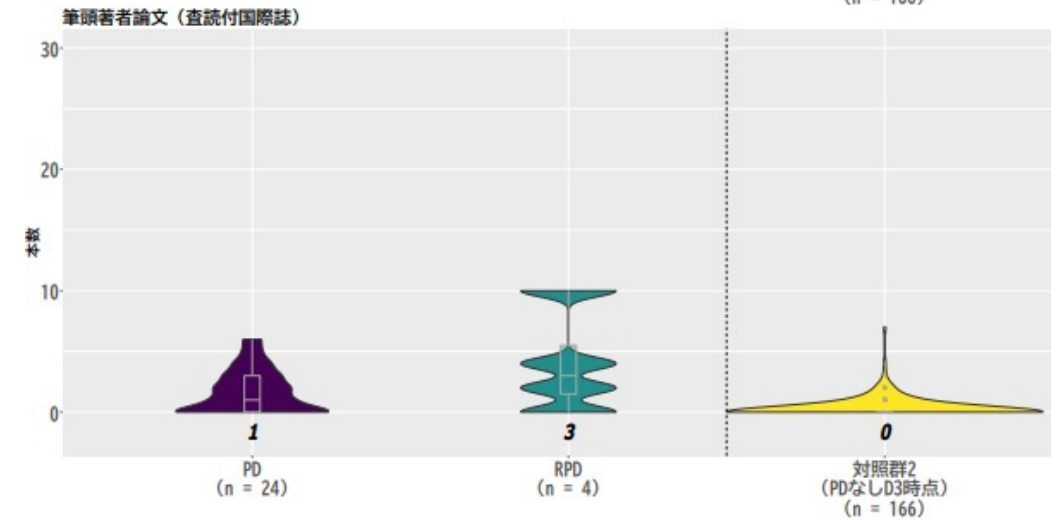
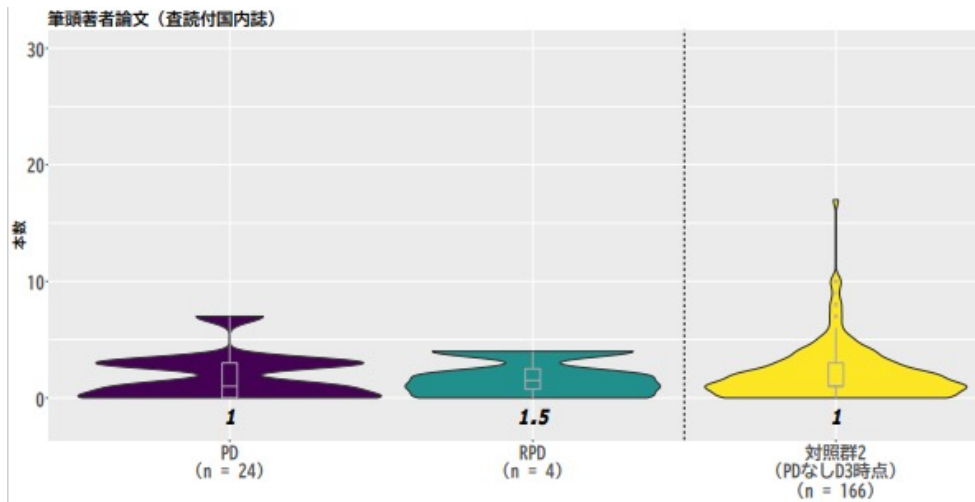
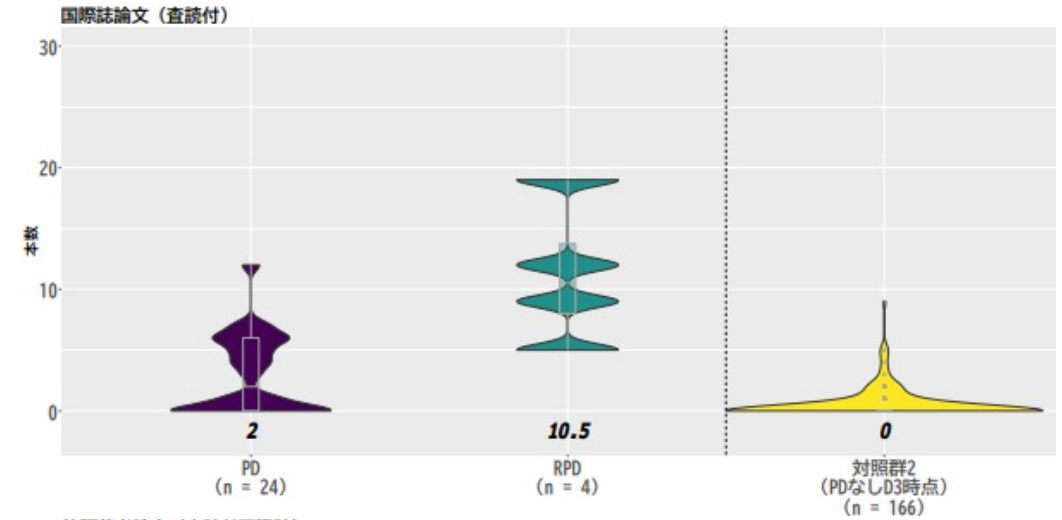
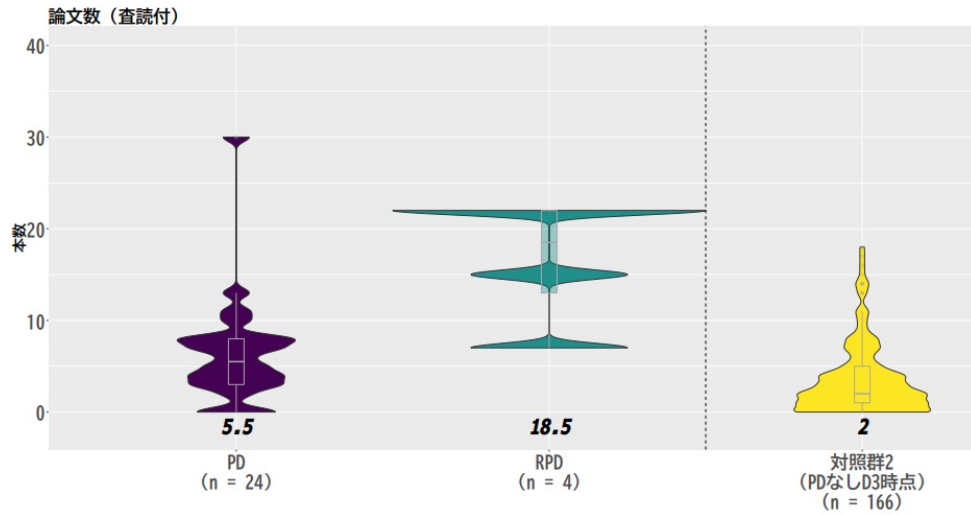
# 結果 | 社会心理PD



→国際誌論文の有無が重要？

※太字数字は中央値。(学振採択者は、必ずしもD3時点の業績ではないことに注意。)

# 結果 | 臨床心理PD



→国際誌論文の有無が重要？ (海外学振の人はひっかからず)

※太字数字は中央値。(学振採択者は、必ずしもD3時点の業績ではないことに注意。)

# PD結果まとめ

---

- PD採択者は、（筆頭でも共著でも）国際誌の本数が多い。
- 海外学振・RPDは、ある程度キャリアを経た人が多いからか、PDより論文数が多い傾向にある。  
（集計された人数がかなり少ないことに注意）
- 分野によって、国内誌・国際誌の比重が違う？  
（DCと同じく、実験心理は国際誌多め、教育心理は国内誌多め）

※採択者の論文数は、採択の前年のものなので、  
対照群（全員D3）との比較はあまり妥当ではない  
（採択者も、D3の時は全く業績がなかった可能性もある）

# これから出す人への Take home message

---

- DCは、業績ゼロでも可能性は結構ある！とにかくチャレンジしてみよう！
- PDは、やはりある程度業績が必要かもしれない！執筆頑張ろう！  
(特に国際誌を目指そう！)
- 全体的に対照群と分布がオーバーラップしているので、基本的にあきらめずに！  
(中央値に過度にとらわれないように)

# 学振の審査基準の変遷 | 論文本数主義からの転換？

学振の審査基準や、申請書フォーマットは変わってきた

2020年あたりで変化

## 2020年度採用分

### 研究業績を書くだけのページ

4. 【研究成果】(下記の項目について申請者が中心的な役割を果たしたもののみ項目に区分して記載してください。その際、通し番号を付すこととし、該当がない項目は「なし」と記載してください。申請者にアンダーラインを付してください。論文数・学会発表等の回数が多くて記載しきれない場合には、主要なものを抜粋し、各項目の最後に「他〇報」等と記載してください。査読中・投稿中のものは除く)
- (1) 学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文、著書(査読の有無を区分して記載してください。査読のある場合、印刷済及び採録決定済のものに限ります。)著者(申請者を含む全員の氏名(最大20名程度)を、論文と同一の順番で記載してください。)、題名、掲載誌名、発行所、巻号、pp 開始頁-最終頁、発行年をこの順で記入してください。
  - (2) 学術雑誌等又は商業誌における解説、総説
  - (3) 国際会議における発表(口頭・ポスターの別、査読の有無を区分して記載してください。)著者(申請者を含む全員の氏名(最大20名程度)を、論文等と同一の順番で記載してください。)、題名、発表した学会名、論文等の番号、場所、月・年を記載してください。発表者に〇印を付してください。(発表予定のものは除く。ただし、発表申し込みが受理されたものは記載しても構いません。)
  - (4) 国内学会・シンポジウム等における発表(3)と同様に記載してください。
  - (5) 特許等(申請中、公開中、取得を明記してください。ただし、申請中のもので詳細を記述できない場合は概要のみの記述で構いません。)
  - (6) その他(受賞歴等)

### ● 採点項目

- 1, 申請書から推量される研究者としての能力・将来性
- 2, 研究業績
- 3, 研究計画

## 2021年度採用

### 自分の研究遂行能力を説明するために引用

4. 【研究遂行能力】研究を遂行する能力について、これまでの研究活動をふまえて述べてください。これまでの研究活動については、網羅的に記載するのではなく、研究課題の実行可能性を説明する上で、その根拠となる文献等の主要なものを適宜引用して述べてください。本項目の作成に当たっては、当該文献等を同定するに十分な情報を記載してください。具体的には、以下(1)~(6)に留意してください。
- (1) 学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文、著書(査読の有無を明らかにしてください。査読のある場合、採録決定済のものに限ります。)著者、題名、掲載誌名、発行所、巻号、pp 開始頁-最終頁、発行年を記載してください。
  - (2) 学術雑誌等又は商業誌における解説、総説
  - (3) 国際会議における発表(口頭・ポスターの別、査読の有無を明らかにしてください。)著者、題名、発表した学会名、論文等の番号、場所、月・年を記載してください。(発表予定のものは除く。ただし、発表申し込みが受理されたものは記載してもよい。)
  - (4) 国内学会・シンポジウム等における発表(3)と同様に記載してください。
  - (5) 特許等(申請中、公開中、取得を明らかにしてください。ただし、申請中のもので詳細を記述できない場合は概要のみの記載してください。)
  - (6) その他(受賞歴等)

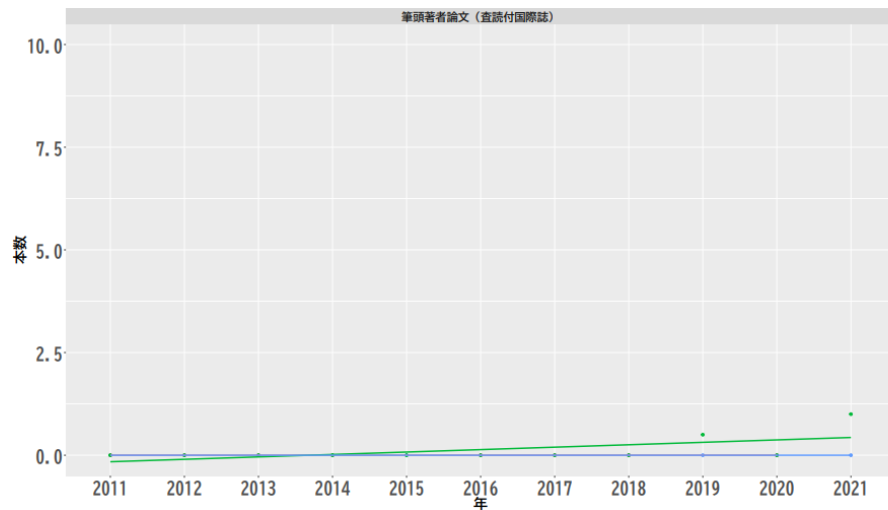
### ● 採点項目

- 1, 研究計画の着想およびオリジナリティ
- 2, 申請書から推量される研究者としての資質

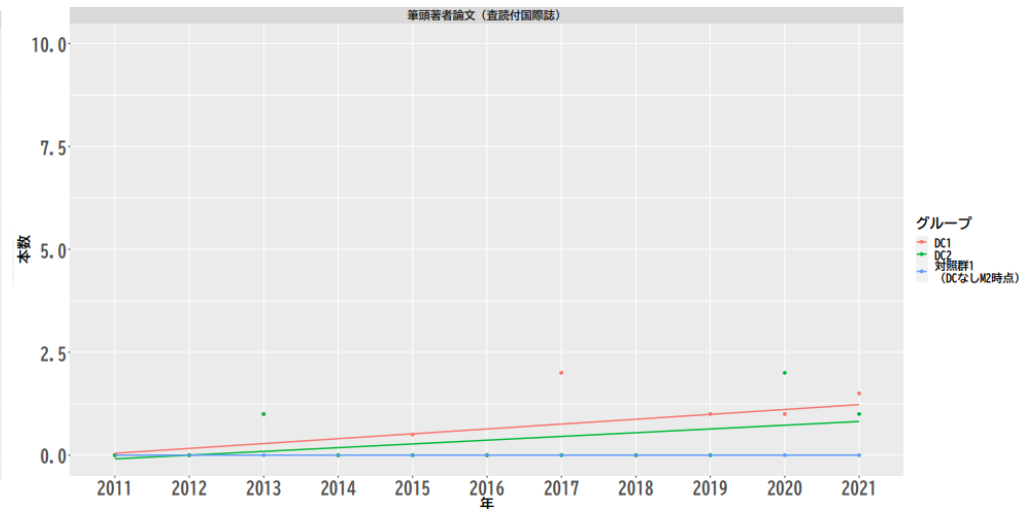
# 結果 | DC 国際誌筆頭の推移

※各点は、各年ごとの中央値

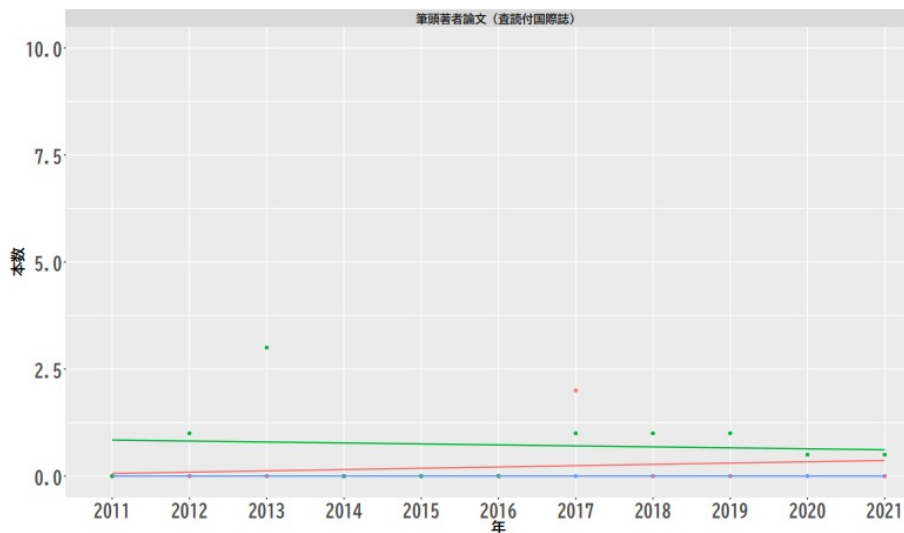
## 教育心理



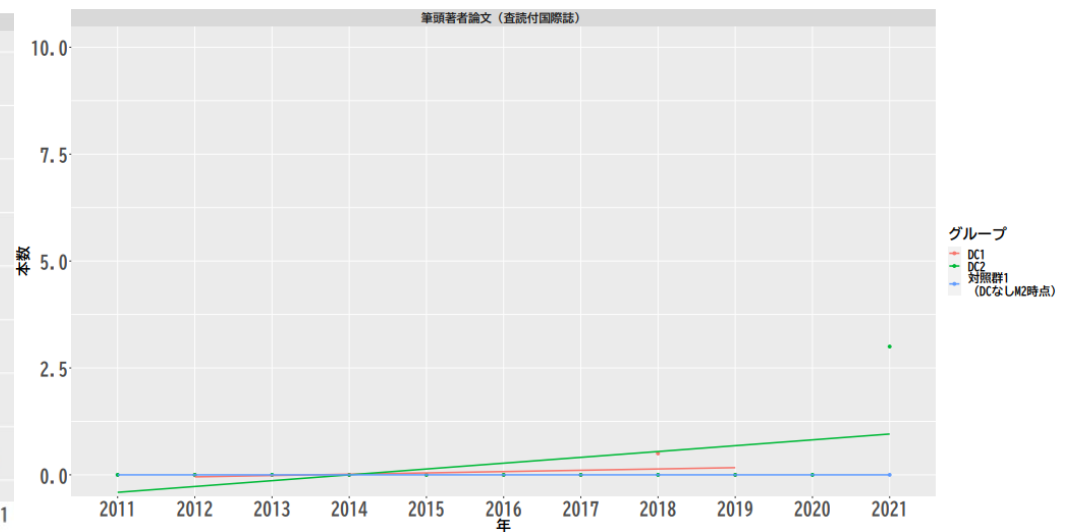
## 実験心理



## 社会心理



## 臨床心理

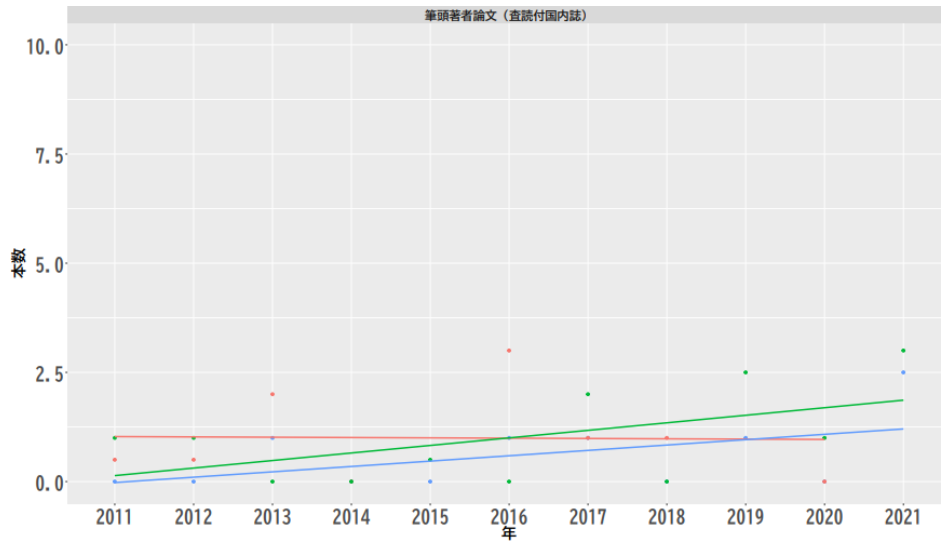


→大きな変化はない？（実験心理は若干増える傾向？）

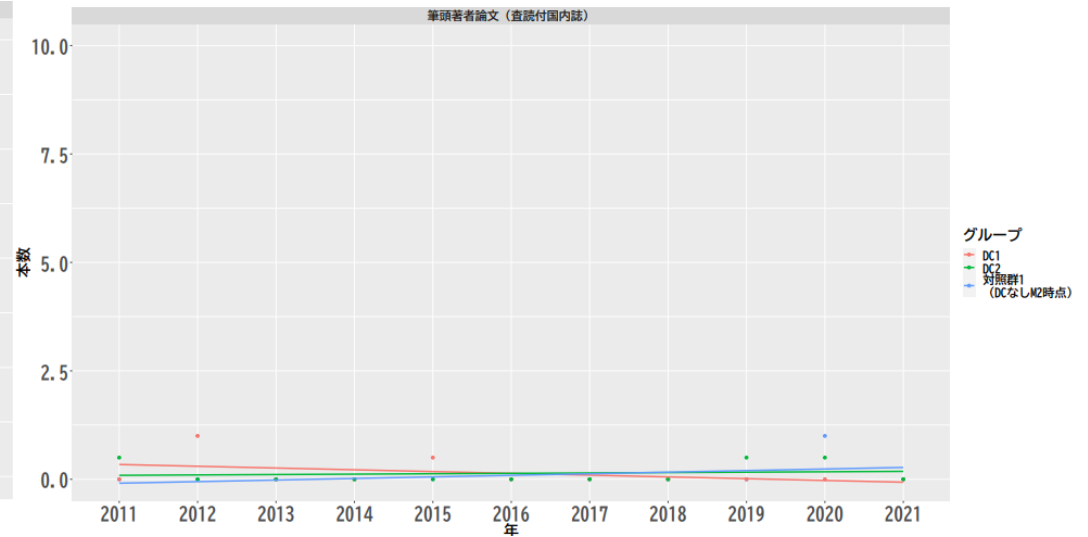
# 結果 | DC 国内誌筆頭の推移

※各点は、各年ごとの中央値

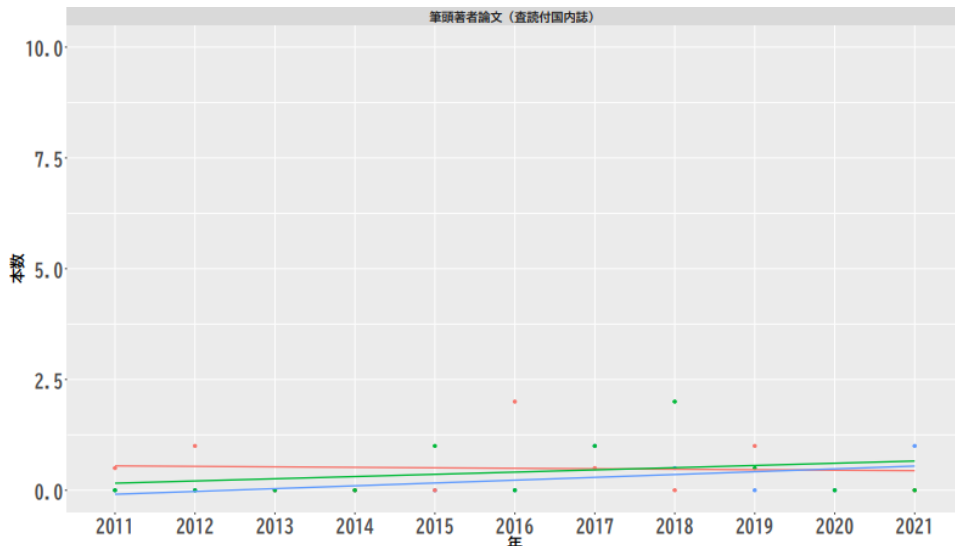
## 教育心理



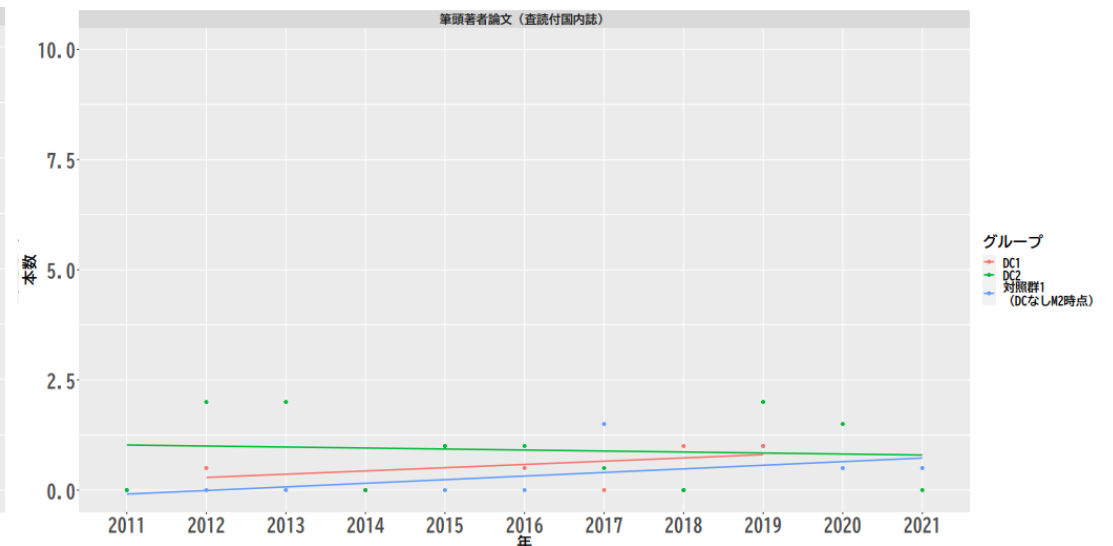
## 実験心理



## 社会心理



## 臨床心理

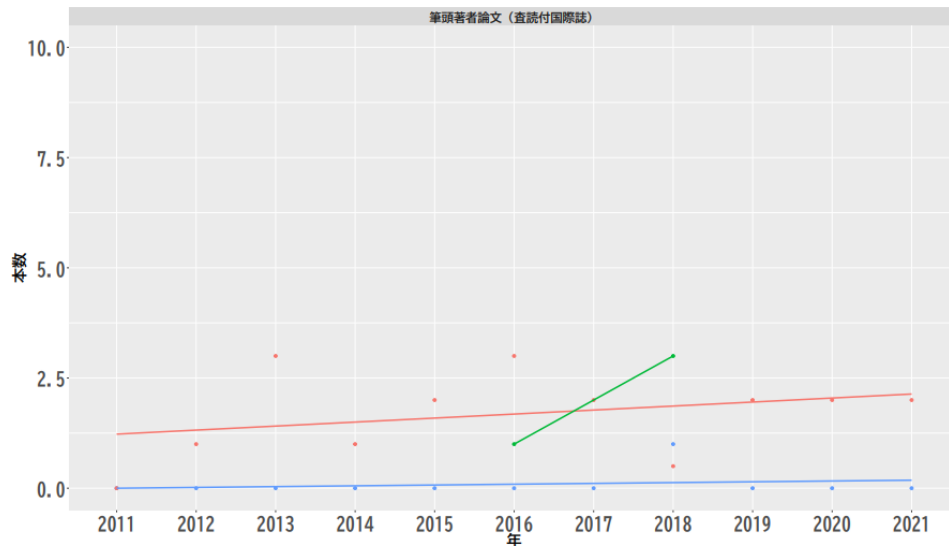


→大きな変化はない？（教育心理は全体的に増える傾向？）

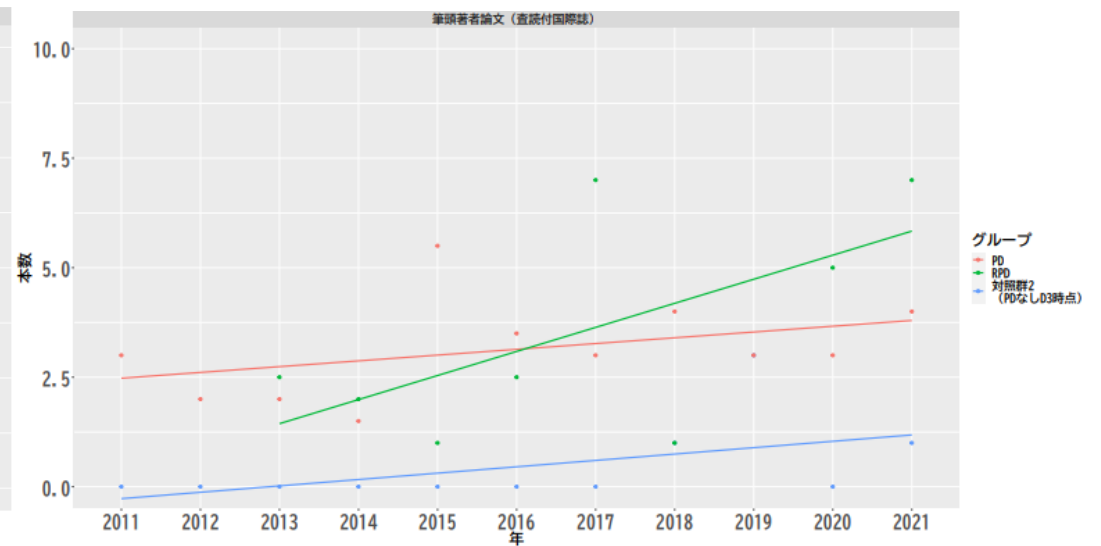
# 結果 | PD 国際誌筆頭の推移

※各点は、各年ごとの中央値

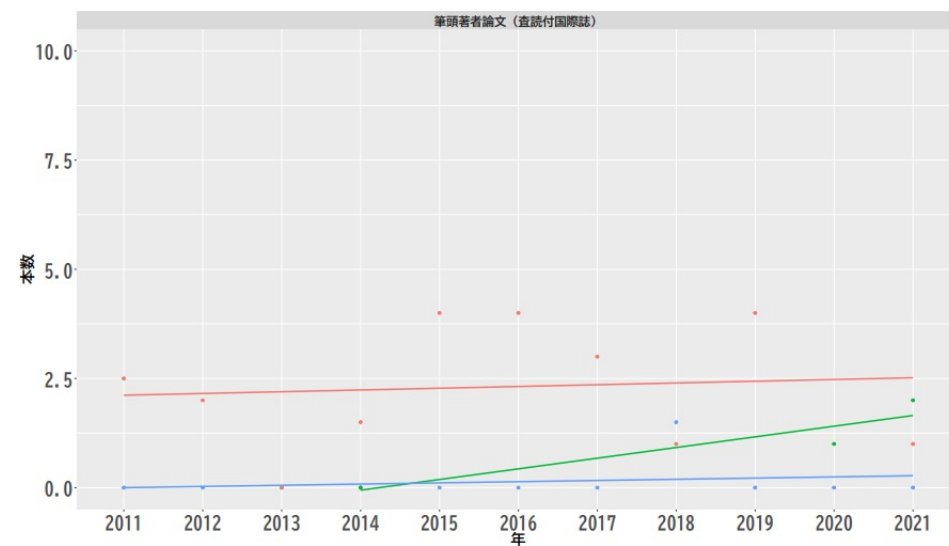
## 教育心理



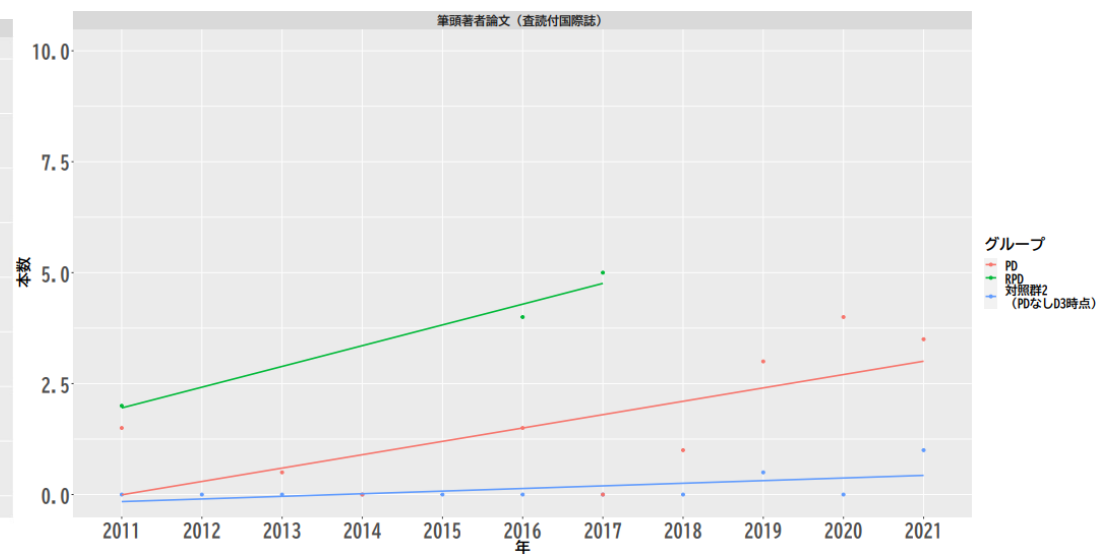
## 実験心理



## 社会心理



## 臨床心理



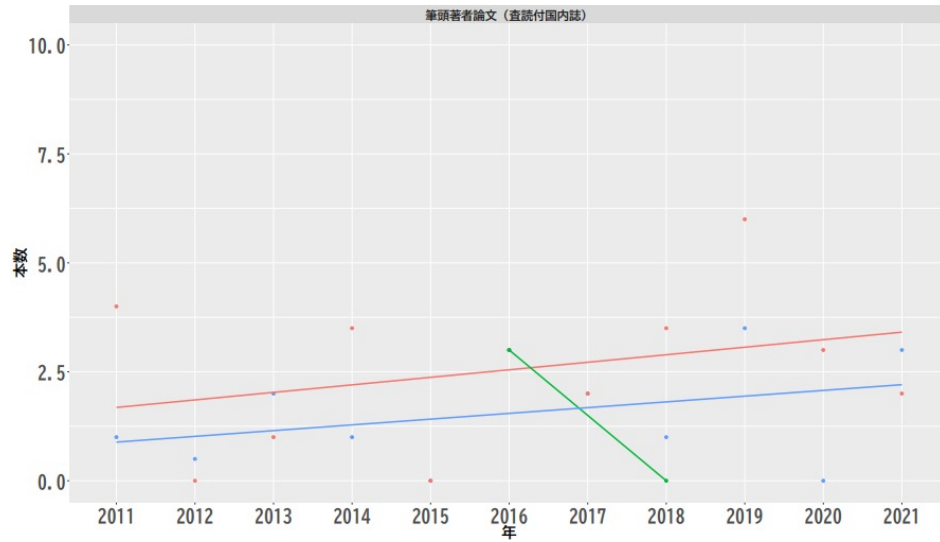
→若干の微増傾向？（社会心理以外）



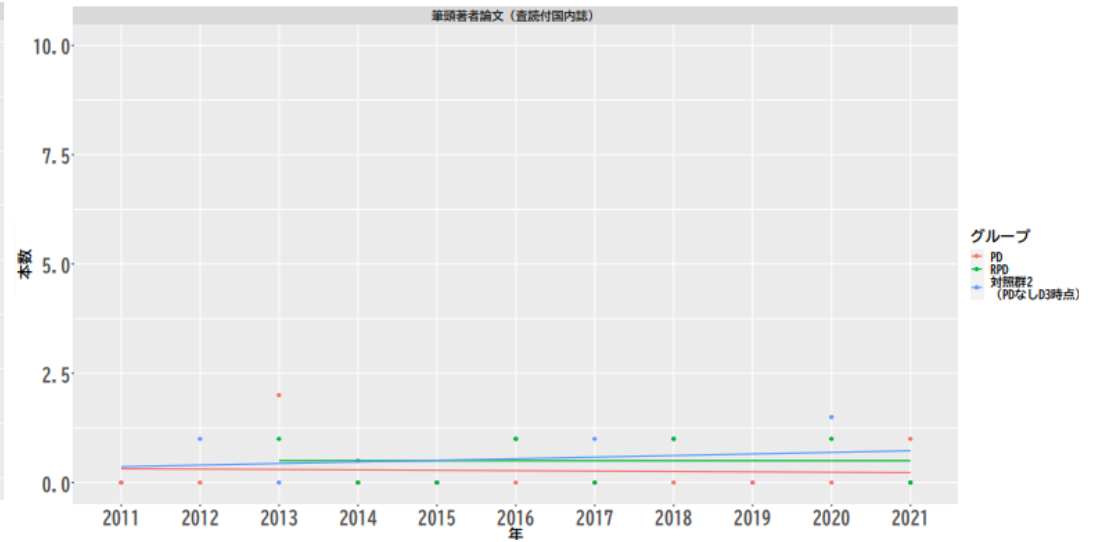
# 結果 | PD 国内誌筆頭の推移

※各点は、各年ごとの中央値

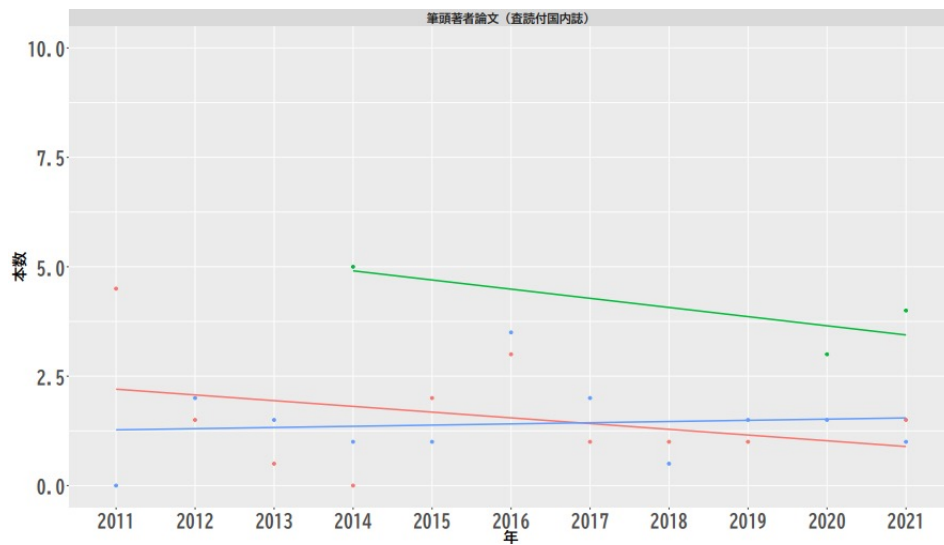
## 教育心理



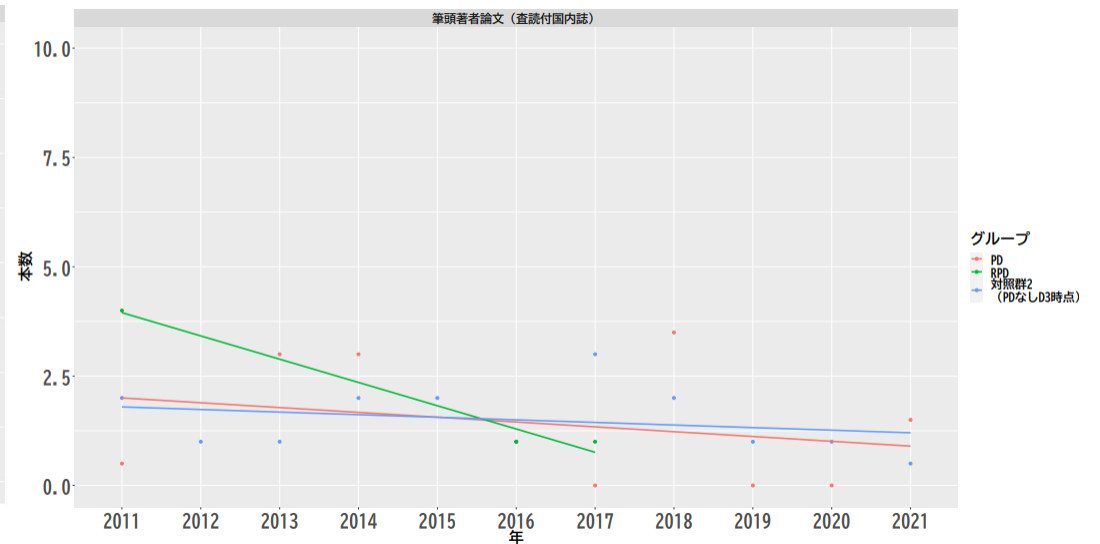
## 実験心理



## 社会心理



## 臨床心理



→ばらばら (社会心理・臨床心理は少し減っている?)

# ここ10年の推移のまとめ

---

- 審査基準やフォーマットが変わっても、業績はそれなりに影響？  
(まだ変わってから時間経っていないが)
- PDは特に、国際誌の業績が多い人が増えていて、国内誌の本数は減っている傾向？

→国際誌採択を目指して頑張ろう

※各年の人数が少ないことに注意。(回帰直線も傾きは不安定なはず)  
あとDCで最近の採択者は、まだresearchmapを作っていない人も多いはず。

# researchmap から ウェブスクレイピングする際の基準

- ・「〇〇心理学」を専門にしている研究者の情報を取得  
(実際に採択された分野ではないことに注意)
- ・学振採用あり  
経歴に「日本学術振興会」「特別研究員」の両者を含む登録がある研究者

## 研究分野 2

- ・ [ライフサイエンス / 基盤脳科学 /](#)
- ・ [人文・社会](#) **臨床心理学 /**

## 経歴 6

2021年4月 - 現在	<a href="#">早稲田大学 人間科学学術院 助教</a>
2020年4月 - 2021年3月	<a href="#">早稲田大学 人間科学学術院 助手</a>
2017年4月 - 2020年3月	<b>日本学術振興会 特別研究員(DC1)</b>
2018年4月 - 2018年9月	<a href="#">東京成徳大学 経営学部 非常勤講師 (数理の基礎)</a>
2017年9月 - 2018年3月	<a href="#">早稲田大学 人間科学部 教育コーチ (専門ゼミ (行動医学))</a>
2016年4月 - 2017年3月	<a href="#">早稲田大学重点領域研究機構 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP) 研究補助者</a>

# researchmap から抽出した情報

- 論文数（査読付）
- 国際誌論文数（査読付）
- 国内誌筆頭論文数（査読付）
- 国際誌筆頭論文数（査読付）

論文 26

[A method of measuring the ability of disengagement from mind-wandering using electroencephalogram and its relationship to mindfulness and depressive symptoms](#)  
Issaku Kawashima, Toru Takahashi, Tomoki Kikai, **高橋大凱**, Hiroaki Kumano  
Psychology & Neuroscience 15 14-27 2022年2月 **査読有り** **筆頭著者**

[マインドフルネスのメカニズムの予測符号化モデルに基づく理解](#)  
**高橋大凱**, 狭島大凱  
心理学評論 64(3) 295-317 2022年2月 **査読有り** **招待有り** **筆頭著者** **責任著者**

[Efficiency and Stability of Step-To Gait in Slow Walking](#)  
Kento Hirayama, Yohei Otaka, Taichi Kurayama, Toru Takahashi, Yutaka Tomita, Seigo Inoue, Kaoru Honaga, Kunitsugu Kondo, Rieko Osu  
Frontiers in Human Neuroscience 15 2022年1月 **査読有り**

[Global perspectives on autism acceptance, camouflaging behaviours and mental health in autism spectrum disorder: A registered report protocol](#)  
Connor Tom Keating, Lydia Hickman, Philippine Geelhand, Toru Takahashi, Joan Leung, Bianca Schuster, Alicia Rybicki, Teresa Marie Girolamo, Elise Clin, Fanny Papastamou, Marie Belenger, Inge-Marie Eigsti, Jennifer Louise Cook, Hirotaka Kosaka, Rieko Osu, Yuko Okamoto, Sophie Sowden  
PLOS ONE 16(12) e0261774 2021年12月 **査読有り**

←共同筆頭も含まれる